

第1回 第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会

- 日時：平成22年8月5日（木）
午前10時から11時30分まで
- 場所：松村ビル別館 503会議室

■次 第■

1 開 会 (10:00~10:10)

- (1) 健康福祉局福祉保健課長あいさつ
- (2) 委員自己紹介<資料1-①>
- (3) 事務局自己紹介<資料1-②>

2 議 事 (10:10~11:30)

- (1) 分科会の目的、検討内容等について<資料2、資料3-①、②>
- (2) 今後の進め方について
 - ア 事例収集の進め方について<資料4>
 - イ ヒアリングシートについて<資料5>
 - ウ ヒアリング候補について<資料6>
 - エ 各委員のヒアリング等への協力について

3 その他

添付資料

- ・ 第1回 第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会 次第
- ・ (資料1-①) 第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会委員名簿
- ・ (資料1-②) 第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会事務局名簿
- ・ (資料2) 第1回 第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会議論のポイント
- ・ (資料3-①) 第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会について
- ・ (資料3-②) 参考：ヒント集作成イメージ
- ・ (資料4) 事例収集の進め方(案)
- ・ (資料5) ヒアリングシート(案)
- ・ (資料6) ヒアリング候補一覧(案)(ヒアリング先照会票付)
- ・ (資料7) 第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会分科会運営要領

第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会委員名簿

【任期：平成22年8月5日～平成23年3月31日】

平成22年8月5日現在

	委員名	所 属	分 野	備考
1	カタナ 名和田 是彦	法政大学法学部 教授	学識経験者 (コミュニティ)	・分科会長 ・第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会副委員長
2	クツ 黒津 貴聖	市民委員	市民委員	第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会委員
3	カノ 中野 シズよ	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま理事長	NPO・市民活動団体等中間支援組織	
4	ヒラガ 平賀 ヒロ裕	市民委員	市民委員	
5	ヤマダ 山田 シチ美智子	よこはま一万人子育てフォーラム	子育て分野関係者	
6	イノウエ 井上 レイコ 禮子	横浜市社会福祉協議会 福祉ボランティア・市民活動部会 部会長	ボランティア関係者	
7	サイノウ 斉藤 保	(株) イータウン 代表取締役 港南台タウンカフェ	コミュニティビジネス関係者	
8	シバ 柴田 マキ 真紀	中区本牧原地域ケアプラザ 地域交流コーディネーター	ケアプラザコーディネーター	
9	シロイシ 白岩 マサ晴 正明	旭区若葉台地区社会福祉協議会 会長	地区社会福祉協議会関係者	
10	タケノ 竹谷 ヤスオ 康生	栄区桂山クラブ 代表	まちづくり関係者	
11	ヨシヒロ 吉弘 ハツエ 初枝	ほどがや市民活動センター アワーズ センター長	生涯学習、子育て分野関係者	

第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会 事務局名簿

平成22年8月5日現在

	氏名	所 属	連絡先
1	深川 敦子	健康福祉局 地域福祉保健部 福祉保健課長	045-671-3994
2	鳥居 俊明	健康福祉局 地域福祉保健部 福祉保健課 計画班 担当係長	045-671-3567
3	戸矢崎 悦子	健康福祉局 地域福祉保健部 福祉保健課 計画班 担当係長	
4	矢島 陽子	健康福祉局 地域福祉保健部 福祉保健課 計画班	
5	山根 明子	健康福祉局 地域福祉保健部 福祉保健課 計画班	
6	佐藤 雄亮	健康福祉局 地域福祉保健部 福祉保健課 計画班	
7	安田 匡志	健康福祉局 地域福祉保健部 福祉保健課 計画班	
8	長尾 克也	(福) 横浜市社会福祉協議会 経営企画部 企画・IT等担当課長	045-201-2087
9	米本 美穂	(福) 横浜市社会福祉協議会 地域活動部 地域福祉課	045-201-8616

第1回 第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会

議論のポイント

今回の分科会では、特に次の事項を中心として議論を進めていきたいと考えております。お忙しいところ誠に恐縮ですが、お送りしました関係資料にお目通しをいただきたく、よろしく願いいたします。

2 議事

(2) 今後の進め方について

ア 事例収集の進め方について<資料4>

イ ヒアリングシートについて<資料5>

ヒアリングシートのヒアリング項目、事務局留意点についてご意見をいただくとともに、ヒアリングの方法、ポイント、ヒントを引き出すためのアイデア等についてご意見をいただきたいと思います。

ウ ヒアリング候補について<資料6>

事前に提出していただいているヒアリング先照会票に基づき、ヒアリング候補一覧<資料6>に取りまとめました。さらに委員のみなさまから、多くの人々が参加し、生き活きと継続的に活動をしている事例について、ご紹介をいただきたいと思います。

なお、最終的にはいただきましたご意見も踏まえ、分野やヒアリング対象数等も考慮、調整の上、ヒアリング先を決めていきたいと考えています。

エ 各委員のヒアリング等への協力について

事務局としては、可能な限り委員のみなさまやご紹介いただける方にも、ヒアリングへの同行や取りまとめ作業等、実際に事務局と一緒にヒント集作成に関わっていただく中で、様々なご意見もいただければと考えています。

そこで、委員のみなさまからどのような関わりを希望されているか、関わり、協力ができそうか等について、ご意見をいただきたいと思います。

第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会について ～推進の柱3「幅広い市民参加により地域福祉保健の取組を広げる」ための分科会～

1 取り組む根拠

市計画「推進の柱3 幅広い市民参加により地域福祉保健の取組を広げる」において、地域福祉保健の取組を広げるために、子どもや若い世代、高齢者や障害のある人、学校や企業の関係者など、幅広い市民参加を進めることについて記述されています。

2 目的

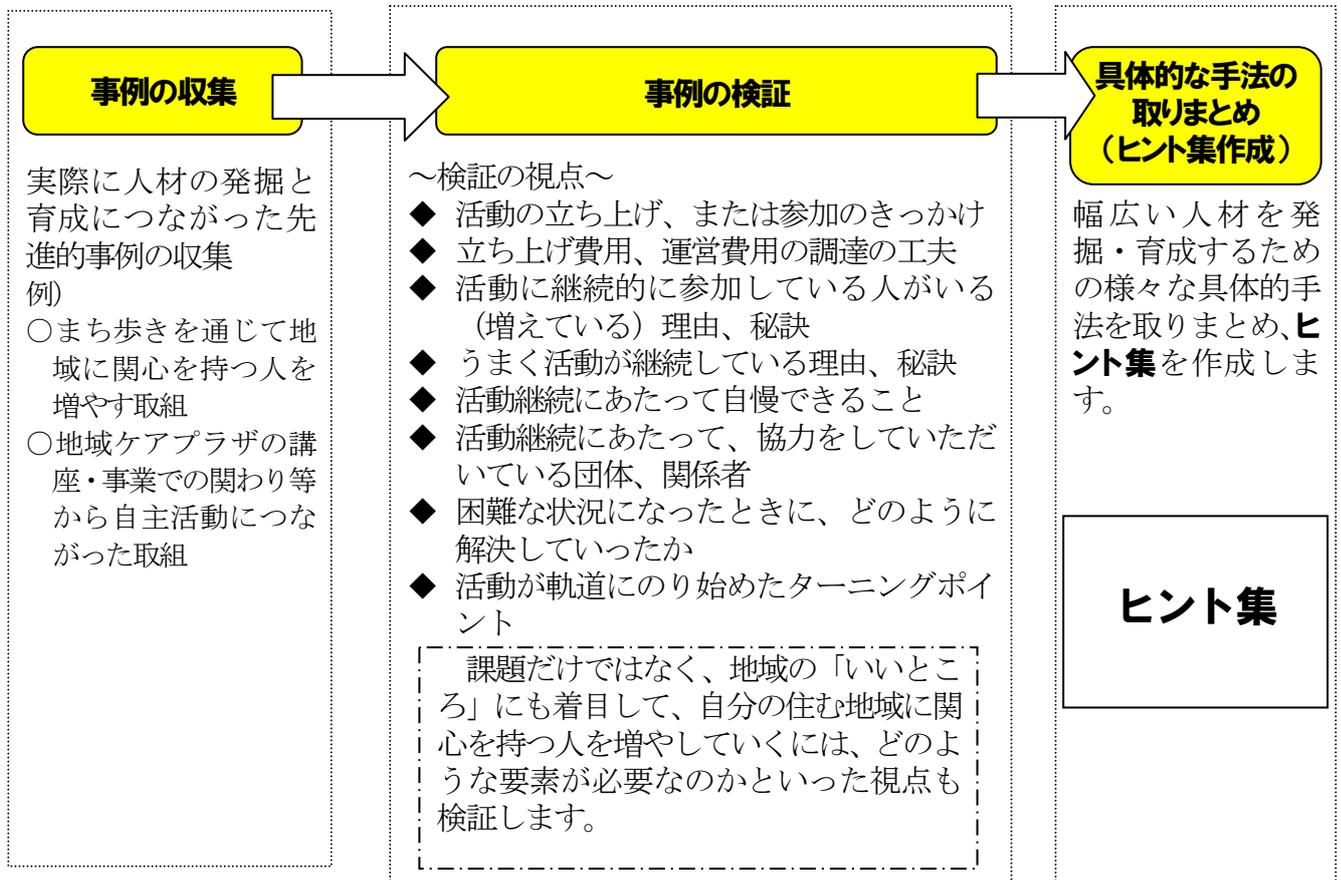
現在、地域福祉保健活動者の担い手の中心としては、自治会町内会、民生委員・児童委員、地区社会福祉協議会、保健活動推進員、老人クラブ関係者等があげられます。一方で、活動者の負担感が強く、後継者や担い手の不足が懸念されています。

そこで、幅広い市民が地域福祉保健活動に参加することができるよう、新たな人材発掘、育成等の手法を検討します。

なお、検討にあたっては、第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会設置要綱第8条に基づき、分科会を設置し検討を進めます。

3 分科会での検討内容

- (1) 幅広い人材を発掘・育成するための事例の収集
- (2) 実際に人材の発掘と育成につながった事例の検証
- (3) 幅広い人材を発掘・育成するための具体的な手法の取りまとめ（ヒント集作成）



※ 平成22年度は人材発掘・育成を中心に検討を進めますが、あわせて、集う場づくりについては、平成23年度以降に取り上げていく課題として検討していきます。

4 成果物

幅広い人材を発掘・育成するための様々な手法をヒント集としてまとめて、地域ケアプラザ、社会福祉協議会、区役所、及び地域福祉保健活動者等に情報提供し活用していきます。

5 分科会メンバー（11名）

別紙資料1-①「第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会委員名簿」参照

- (1) 策定・推進委員から、計5名
- (2) 幅広い担い手の育成、発掘について、先駆的事例を実践し実績のある方 計6名

6 事務局

健康福祉局福祉保健課、横浜市社会福祉協議会

※ 市民局地域活動推進課は、オブザーバーとして参加

7 スケジュール

項目	時期	内容
メンバーの決定	6月	・メンバーの募集及び決定
第1回分科会	8月5日(木)	・分科会の目的、趣旨、今後の進め方の説明 ・幅広い人材を発掘・育成するための事例収集の進め方等 検討
事例収集 (ヒアリング等)	8月～10月	・幅広い人材発掘・育成するための事例収集のため、先駆的 事例を実践している方、団体関係者へのヒアリング、冊子等 からの事例収集等を実施
事例の整理・検証	10月～11月	・収集した事例の整理、検証
中間報告	10月	・第12回市計画策定・推進委員会 ※事例収集、検証の中間報告
第2回分科会	11月～12月	・収集した事例の整理、検証 ・幅広い人材を発掘・育成するための具体的な手法の検討
ヒント集(案)作成	12月～2月	・幅広い人材を発掘・育成するための具体的な手法の取りま とめ～ヒント集(案)作成～
第3回分科会	2月	・ヒント集(案)の検討
ヒント集作成	2～3月	・ヒント集作成
最終報告	3月	・第13回市計画策定・推進委員会 ※ヒント集確定

8 その他

先駆的事例を実践している方、団体関係者等を分科会にゲストを呼ぶ、または、別途ヒアリングを実施する等により、幅広い方から意見を伺い、様々なパターン手法をヒント集としてまとめます。

参考：ヒント集作成イメージ

1 事例の収集

※ヒアリングや既存の事例集、資料等から取り上げた事例の中で、「ヒアリング項目」に当てはまるものを集める。

ヒアリング項目

- ① 活動の立ち上げ、または参加のきっかけ
- ② 立ち上げ費用、運営費用の調達の工夫
- ③ 活動に継続的に参加している人がいる(増えている)理由、秘訣
- ④ うまく活動が継続している理由、秘訣

事例ヒアリングA

○～
○～
○～
○～

事例ヒアリングB

○～
○～
○～
○～

既存の事例集、資料等からの参照C

○～
○～
○～
○～

2 事例の検証

※収集した事例をもとに、ヒアリング項目毎にヒントを抽出する。

ヒアリング項目

- ① 活動の立ち上げ、または参加のきっかけ
○
○
○
- ② 立ち上げ費用、運営費用の調達の工夫
○
○
○
- ③ 活動に継続的に参加している人がいる(増えている)理由、秘訣
○
○
○
- ④ うまく活動が継続している理由、秘訣
○
○
○

3 具体的な手法の取りまとめ（ヒント集作成）

ヒント集

※ヒアリング項目毎に抽出したヒントから、「幅広い人材を発掘・育成する」ための手法をとりまとめ、ヒント集を作成する。

事例収集の進め方(案)

1 ヒアリングによる事例(ヒント)収集

(1) 実施について

- ・ヒアリング実施数：10回程度
- ・ヒアリング所要時間：1時間半程度/回
- ・ヒアリング参加者：局福祉保健課から1～2名、市社協から1～2名、分科会委員等

※ 前提として、活動内容等既存の資料で確認できることは、あらかじめ情報を押さえておく。

- ・ヒアリング実施方法：ヒアリングシートの項目を基にしながら実施

※ ヒアリングをする際には、ただ結論としてヒントを教えていただくといったスタンスではなく、プロセス（歴史、経緯、苦労話、背景等）をお聞きしながら、ヒントを引き出す形で実施する。

(2) ヒアリング項目(案)

- ・活動の立ち上げ、または参加のきっかけ
- ・立ち上げ費用、運営費用の調達の工夫
- ・活動に継続的に参加している人がいる（増えている）理由、秘訣
- ・うまく活動が継続している理由、秘訣
- ・活動継続にあたって自慢できること
- ・活動継続にあたって、協力をしていただいている団体、関係者
- ・困難な状況になったときに、どのように解決していったか
- ・活動が軌道にのり始めたターニングポイント

2 既存の事例集、資料等からの事例(ヒント)収集

既存の事例集、資料等から事例を収集し、ヒアリング項目を基に事例から読み取れるヒントを抽出する（局福祉保健課と市社協で分担）

※ ヒアリングを実施する前にこちらの作業を実施する。ヒント集としてまとめる上でのイメージや、重要となるポイントをある程度絞った上で、ヒアリング先の選定や、実際のヒアリングに臨む。

※ 1と2の作業で収集した事例(ヒント)を整理・検証し、ヒアリング項目をベースにしながらヒント集としてまとめていく。

ヒアリングシート（案）

ヒアリング対象

組織名	
ヒアリング対応者	
ヒアリング実施者	
活動内容 （概要） 活動目的	

ヒアリング項目	各項目についてヒアリングする際に、具体的に聞くべきこと、留意すべき点（事務局留意点）	記入欄
○活動立ち上げに関して		
① 活動の立ち上げ、または参加のきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を立ち上げようと思ったとき、仲間とどのようなことを話し合ってきたのですか（繰り返しの話し合いにより、活動が目指すことの共通理解が徹底されたのではないか） ・まずは自分自身が楽しく長く参加するために、心がけてきたことはありますか（活動の目的を意識しすぎると、義務的になり続かないということを、初期の段階から意識していたり、何らかの失敗があつて気付いたりしたのではないか） ・立ち上げに当たって、参考にした事例はあるか ・誰でも参加できる体制になっているか ・立ち上げに当たっての問題意識をどのように共有したか ・周りからどのような協力（支援）を得ながら立ち上げていったか ・純粋にきっかけを聞く中で、活動に関わろうと思った気持ちを読み取る ・躊躇していたとき、あるいは活動に関わろうとは思っていなかったが、結果的活動に関わろうと思えたきっかけ 	

	ヒアリング項目	各項目についてヒアリングする際に、具体的に聞くべきこと、留意すべき点（事務局留意点）	記入欄
②	立ち上げ費用、運営費用の調達の工夫		
○活動の維持に関して			
③	活動に継続的に参加している人がいる（増えている）理由、秘訣	<p>・新しい活動メンバーの募集はどのように行っていますか。新メンバーに対して、どのような配慮をしていますか（「ボランティア募集」と直接的に集めるのではなく、イベントをやったり、講座をやったりして、活動への理解者を増やす中で、興味関心のある人を自然と巻き込んで行くような工夫をしているのではないか。新メンバーが無理なく活動に参加できるような工夫があるのではないか。新メンバーがすぐにやめてしまったり、メンバー同士がうまくいかなかったりした苦い経験があるのではないか。）</p> <p>・活動をどのようにPRしているか</p> <p>・参加者の自主性が尊重されているか</p> <p>・まさにその秘訣（工夫、魅力）を具体的にお聞きする</p> <p>・活動者の定着に向けて心がけていることがあればお聞きしたい</p>	
④	うまく活動が継続している理由、秘訣	<p>・中心となって活動しているメンバーで、この先何年後かの活動の姿を考えたりすることがあります（ある程度大きくなった活動は、リーダーの世代交代をして、活動を続けることが社会的に求められているのではないか。数年先の青写真を描いて、今できる人材育成をコツコツとやっているのではないか。）</p> <p>・キーパーソンが存在はあるか。その引継ぎ役はどのように育成しているか</p> <p>・どのような方法でキーパーソンを見つけるのか</p> <p>・参加者のモチベーションはどのように保っているか</p> <p>・活動団体同士の横のつながりはあるか。それをどう活用しているか</p> <p>・まさにその秘訣（工夫）を具体的にお聞きする</p> <p>・参加者に役割等をどのようにうまく振り分けているか</p>	

	ヒアリング項目	各項目についてヒアリングする際に、具体的に聞くべきこと、留意すべき点（事務局留意点）	記入欄
⑤	活動継続にあたって自慢できること		
⑥	活動継続にあたって、協力をしていただいている団体、関係者、機関（地域ケアプラザ、区社協、区役所等）	<ul style="list-style-type: none">・具体的にどういう団体、関係者からの協力、支援を受ける中で、うまく継続しているのかをとりあえず軽く聞いてみてもいいのでは？・困った時に相談できる関係者や相談機関はあるか・活動のPRはどこに行っているか。他の活動に関する情報はどこで得ているか・地域ケアプラザや区（地区）社協、区役所からは、協力、支援があるか。ある場合は、その内容。ない場合は、その理由	

ヒアリング項目	各項目についてヒアリングする際に、具体的に聞くべきこと、留意すべき点（事務局留意点）	記入欄
⑦ 困難な状況になったときに、どのように解決していったか	<p>・活動がもう続けられないというようなピンチはありましたか。その時に何に支えられましたか。そこから学んだこと、現在、活かしていることはありますか。（ピンチをチャンスに変えるという気質、プラス志向になりやすい秘訣があるのではないかと。結果として、更にそこへ担い手は集まってくるのではないかと。）</p> <p>・その時、活動の事務局はどのような役割を果たしたか</p> <p>・乗り越えた問題を繰り返さないための工夫はあるか</p> <p>・解決をするにあたって、協力、支援をいただいた団体、関係者、機関は</p>	
⑧ 活動が軌道にのり始めたターニングポイント	<p>・上の設問とも通じる箇所はありますが、ターニングポイントにこそ、たくさんのヒントが隠されているかと思しますので、活動の歴史を聞く一つの項目くらいにとらえてはいかがでしょうか</p> <p>・〇年ごろから、活動が軌道に乗ったようですが、どういう体制をとったことがよかったのでしょうか。他の活動者の方に共通に参考になると思われるようなヒントがあれば教えてください</p> <p>・軌道に乗り始めたたり、困難な状況になったり、そのサイクルはあるか</p>	
○その他		
	<p>・常に心がけていること、大事にしていること、モットーがあれば教えてください（活動の中心にいる人は、どのような活動であっても、同じ様なことを言うのではないかと）</p> <p>・直接この活動の担い手を発掘・育成することではなくても、活動への理解者を増やしたり、活動を利用してくれる人を増やすことも、将来的には担い手の発掘・育成につながると思いますが、広い意味で、将来的な視野で、取り組んでいることや考えていることがあれば教えてください</p> <p>・活動者には限界で、行政や公的機関にここはお願したいということがあれば教えてください</p> <p>・参加者のモチベーションがあがっている（継続している）理由</p> <p>・ヒアリング対象者が、もっともやりがいがあると感じている点</p> <p>・自分の住む地域を知る、愛する人を増やすためのアイデアは（愛する人が増えることで、地域のことを考え、もっといい地域にしようと考え行動する人も増えるのではと思います）</p>	

ヒアリング 項目	各項目についてヒアリングする際 に、具体的に聞くべきこと、 留意すべき点（事務局留意点）	記入欄
ヒント・コツ		
担い手を育成・発掘するためのポイントを3つくらいにまとめる。		

資料6

平成22年8月5日現在

ヒアリング候補一覧（案）

	ヒアリング対象	分野	紹介者
1	港北区ボランティア連絡会	ボランティア	井上 禮子
2	さわやか港南	高齢者の在宅支援、託児の子育て支援等有償サービス、青年学級、障害者・高齢者の地域の居場所等	黒津 貴聖
3	「脳イキイキ教室」サポーターの会	高齢者	柴田 真紀
4	NPO法人 びーのびーの	子育て	山田 美智子
5	ほどがや産直便	農業	吉弘 初枝
6	家庭教育学級ぱんぷきん運営委員会 (NPO法人 横浜市民アクト)	子育て	吉弘 初枝
7	パソコンほどがや宿	生涯学級、仲間づくり	吉弘 初枝
8	ほどがやガイドボランティアの会	町歩き	吉弘 初枝

第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会分科会運営要領

制 定 平成20年2月4日（局長決裁）

改 正 平成20年12月10日（局長決裁）

（目的）

第1条 第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会設置要綱（以下「要綱」という。）第8条に基づき、第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会（以下「委員会」という。）に設置する分科会の運営等について必要な事項を定める。

（所掌事項）

第2条 分科会は、テーマごとの課題検討及び検証を行う。

（組織）

第3条 各分科会は、委員10名程度で構成する。

- 2 前項に掲げる委員のほか、必要があると認めるときは、臨時委員を置くことができる。
- 3 委員は、市民、福祉保健活動を行う者、社会福祉事業を営業者、学識経験者、その他市長が必要と認める者の中から市長が委嘱する。
- 4 分科会に分科会長を置く。
- 5 分科会長は、委員会の委員長又は副委員長がこれにあたる。

（任期）

第4条 委員の任期は第2条第1項第1号から3号に掲げる事項の検討が終了するまでとする。

（報酬）

第5条 委員は、別に定めるところにより報酬を受けるものとする。

（会議）

第6条 各分科会の会議は、分科会長が召集する。

- 2 分科会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に分科会への出席を求め、その説明または意見を聞くほか、資料の提出その他必要な協力を求めることができる。

（庶務）

第7条 第2条第1項の分科会の庶務は、健康福祉局福祉保健課が処理にあたる。

（委任）

第8条 この要領に定めるもののほか、分科会の運営に関し必要な事項は、分科会長が分科会に諮って定める。

附 則

この要領は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成 平成20年12月10日から施行する。

※参考：第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会設置要綱より抜粋

(設置)

第1条 社会福祉法（昭和26年法律第45号）第107条の規定に基づき、横浜市の地域福祉保健推進に関する事項を総合的に定める第2期横浜市地域福祉保健計画（以下「計画」という。）を策定すること及び策定後の計画の推進状況を評価することを目的として、第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会の所掌事項は、次に掲げるものとする。

- (1) 第1期計画の評価に関すること。
- (2) 第2期計画の策定に関すること。
- (3) その他計画の策定・推進に必要な事項に関すること。

(分科会)

第8条 第2条に掲げる所掌事項の事前の調査及び検討を行うため、分科会を置くことができる。

- 2 分科会は、委員長が定める事項について、調査・検討を行う。
- 3 分科会の運営については、別に定める。